

AGRIE GROUP 株式会社 AGREE

代表取締役 伊藤 俊一郎 氏



茨城県つくばみらい市に本部を構えるAGRIE GROUPは、2015年6月に訪問診療を中心に行う診療所、同年9月には住宅型有料老人ホームを開設、さらに、2017年2月には医療相談アプリを開発・運営する(株)AGREEを設立しました。

同グループの代表を務める伊藤氏は、筑波大学出身の心臓外科医としての経験を活かし、「いつでも、どこでも、誰にでも、最高の医療をあなたのもとに」という理念を掲げ、時代に沿った形で理想の医療事業を展開してきました。

「世の中に新しい価値を創造していくことこそ、ベンチャー企業の使命」と語る伊藤氏の熱い想いをお聞かせいただきました。

インタビュー日：2018年7月26日
〔聞き手：筑波総研(株) 専務取締役 藤咲耕一〕
〔文・写真：筑波総研(株) 研究員 富山かなえ〕

企業概要

住所：茨城県つくばみらい市伊奈東37-1
(グループ本部)

設立：2017年2月17日 (株)AGREE)

従業員：120名 (グループ全体)

事業内容：医療相談アプリ「LEBER」の開発・運営
(株)AGREE)

住宅型有料老人ホーム「アグリケアガーデン」
運営 (株)AGRI CARE)

訪問診療を中心に行う診療所「メドアグリ
クリニック」運営 (医療法人AGRIE)

伊藤社長のご略歴と会社設立の経緯、苦労されたことなどについてお聞かせください。

「命を救う職人」に憧れ、医師を目指す

私は1979年、新緑の宝石「翡翠」の産地である有名な新潟県糸魚川市で産声を上げました。地元の小中学校と高校を卒業後、故郷から遠く離れた筑波大学医学専門学群に入学しました。

糸魚川の実家では、祖父と父が養豚業と精肉会社を営んでいました。私は会社経営のために、朝から晩まで必死に働く父の姿を見ながら、少年時代を過ごしました。

しかし、自分自身の将来を考えた時、父や祖父の後を引き継いで畜産業や会社経営を選択することは、あまり気が向きませんでした。

一方、私は昔から手に職を持つ「職人」に憧れていました。そして、自分の技術で人の命を救うことができる仕事がしたいと考え、医師になることを決意しました。

医療の矛盾を感じ、自ら診療所を立ち上げる

大学では心臓外科を学び、2004年に卒業した後は、筑波大学附属病院の心臓血管外科の研修医として、同院をはじめ千葉県や山形県にある提携病院に勤務し、多くの実績を重ねました。

10年間、勤務医として働く中で、私は医療の問題や矛盾点に気が付き始めました。それは、医師や看護師の激務に加え、医療費削減を目的とした患者に対する長期入院の抑制でした。

私は退院を迫られ不安そうな患者を目の当たりにする中で、患者に対する病院側のホスピタリティ不足に憤りを感じるようになっていきました。

いつしか私は、誰もが希望する医療を受けながら安心して暮らせる“サードプレイス”を作りたいと考えるようになりました。そして、病院を退職し、今後需要が高まる在宅医療と老人医療を展開する会社と医療法人を立ち上げる決意を固めました。

2014年6月から開業準備に入り、2015年6月、つくばみらい市に入院とリハビリ機能を有する施設を併設した診療所「メドアグリクリニック」を開業、同年9月には、同じ敷地内に住宅型有料老人ホーム「アグリケアガーデン」をオープンしました。

理想の医療展開のため、積極的に人へ投資

起業する際に最も苦労したことは、一緒に事業を進める仲間集めです。私は病院で勤務していた頃に知り合った看護師などに対して地道に声を掛け続け、徐々に仲間を増やしていきました。

現在ではグループ全体で医師5名、看護師25名、介護士25名、事務員を合わせ120名の仲間に恵まれました。従業員からは医療施設では珍しい週休2日制度の導入、無料託児所の開設、食事の無料提供などが好評で、高い定着率を誇っています。



伊藤社長（中央）と社員の方々

運営する診療所や住宅型有料老人ホームの特徴についてお聞かせください。

医療人が果たすべき使命が詰まった施設

私は「困っている人の助けになること」こそ、医療人が果たすべき使命であると信じ、信頼関係を大切にしながら利用者の方々と接しています。

以前、当グループが独自に実施した医療に関するアンケートでは、約6割の方が「自宅で医療や介護を受けたい」という結果が出ました。

現在、国は医療費抑制を目指し、2025年までに病床数を全国で20万床削減する方針を示しています。つまり、地域で患者を見守る在宅医療制度が必要になる時代が、すぐそこまで迫って来ているのです。

そこで、「メドアグリクリニック」では、身体的・社会的な理由で通院が困難な方をはじめ、住み慣れた地域や自宅で長期療養を受けたい方のために、訪問診療と通所リハビリ事業を展開しています。

また、「アグリケアガーデン」では、他の有料老人ホームなどでは受け入れが難しい重症患者の受け入れを積極的に行っています。

高度な医療行為を行うため、在宅酸素や人工呼吸器、在宅透析などを室内で受けることができる設備環境を整え、“終の棲家”として利用者やご家族にご納得いただける施設を目指しています。

また、各施設は木の温もりに包まれた柔らかい雰囲気づくりにこだわり、大子町の県産材を利用しました。各室からは緑まぶしい中庭を臨むことができ、季節の移ろいを感じることができます。



中庭から柔らかい光が差し込む食堂・療養室の様子

地域に開かれた施設を目指す

通常の老人ホームへ大切な人を入所させるご家族は、“端に追いやるような感覚”に陥ることが少なくありません。

しかし、当施設はまるで別荘のように快適であり、ご家族が罪悪感に苦しむ必要はありません。むしろ、「このような辛い病状になってしまっても、ここなら幸せに暮らすことができる」と希望を持っていただけたと思います。

また、施設内には各所にラウンジを設けました。これは開かれた施設づくりを目指すため、利用者のご家族をはじめ、周辺地域の方々にも施設を気軽にご利用いただける「カフェスペース」としての機能も有しています。



ラウンジに置かれたメダカのお世話を職員と伊藤社長

グループ全体の経営理念と新事業の医療相談アプリ「LEBER」についてお聞かせください。

理想の医療を「いつでも、どこでも、誰にでも」

当グループは「いつでも、どこでも、誰にでも、最高の医療をあなたのもとに」という理念を掲げています。これまで私は、時代に沿った形で患者やその家族の「あったらいいな」を実現するため、理想の医療事業を展開してきました。

また、新事業として、2018年1月からインターネットを通じ、いつでも、どこでも、誰でも24時間365日、低価格で手軽に医師へ相談できるスマホアプリ「LEBER（リーバー）」を開発しました。

「LEBER」という名称には、ドイツ語の「LEBEN（生命）」を「守るもの」という熱い願いを込めています。



画像提供：株式会社AGREE

「LEBER」が新しい医療相談の形を実現

「LEBER」では、サイバー空間（仮想空間）における「ドクターシェアリングのプラットフォーム」という新システムを提供しています。

このアプリは無料でダウンロードができます。また、無料のベーシック会員と月額基本料300円のプレミアム会員の2種類を用意しました。

利用者はクラウドRPAを活用した自動会話プログラムを通じて症状を入力し、回答希望医師の指定や回答時間の早さに応じた料金を支払うことで、医師から適切なアドバイスを受けることができます。

最短3分で医師からの相談結果を知ることができるため、小さな子どもがいるご家族や忙しくて病院に行けない方、病院にかかるべきか悩んでいる方などの強い味方になっています。

「持続可能なヘルスケアシステムの構築」へ

医療の地域格差が進む現代において、当社が開発した「LEBER」は、いつでも利用者自身の健康管理・セルフメディケーションを支えると同時に、病の早期発見・早期治療やセカンドオピニオンの取得などに大きな効果を発揮しています。

今後も「持続可能なヘルスケアシステムの構築」を目指し、軽症での病院利用者の減少などを通じ、国の医療費抑制にも貢献したいと考えています。



「LEBER」について説明する伊藤社長(右)

「LEBER」に関する今後の事業戦略と、現在ご利用いただいている「つくば地域活性化ファンド」へのご意見をお聞かせください。

企業の健康経営に「LEBER」の導入を

「LEBER」がサービスを開始してから、ダウンロード数は1,000件以上、登録医師数は56名を超え、毎日多くの医療相談が行われています。

利用者からは、文章で回答内容を確認できるため安心できる、また、登録医師からは相談実績で評価されるため緊張感を持って対応できると、ご好評をいただいています。

今後の事業戦略としては、社員の健康を守る目的として、企業の福利厚生制度の1つに「LEBER」を導入していただきたいと考えており、今後さらに契約数を伸ばして多くの方の健康を支えたいと考えています。

また、「LEBER」は2017年10月、仮想空間と現実空間を高度融合する優れたシステムとして評価され、「つくばSociety5.0社会実装トライアル支援事業」に、また、今年8月には、「内閣府近未来技術等社会実装事業」に採択され、行政より強い期待を受けております。今後はつくばから日本、そして世界に発信できる事業へと成長させていきたいと考えています。

力強い支援を背に、未来の医療を牽引

当社は2018年2月より、当社の理念や事業にご賛同いただいた筑波銀行から「つくば地域活性化ファンド」の支援を受けており、手厚い支援に大変感謝しています。今後も力強く温かい応援を背に、地域のために未来の医療を牽引できる存在に成長できるよう精進してまいります。

最後に、グループ全体の展望と伊藤社長が考える「幸せ」についてお聞かせください。

地方にも充実した医療サービスを

今年1月、故郷の糸魚川に住む祖母が脳出血で倒れ、また、その翌月には祖父が庭先で転倒し、肋骨を折る大怪我をいたしました。

祖母は私の施設に搬送してリハビリを行い、胃ろうから、口で食事できるまでに回復しました。しかし、地元では在宅医療サービスが不十分であり、祖父は自宅で急変し、命を落としてしまいました。

私は愛する人が地方に居住しているという理由だけで、最高の医療が受けられないという事実で強い怒りを覚えました。そして、地方における医療について、さらに深く考えるようになりました。

その後、縁がつながり、来年4月、糸魚川で起きた大火からの復興の象徴である市営住宅の1階に、当グループの診療所の開設が決定しました。

「幸せとは、無数の選択肢から自由に選べること」

私が考える「幸せ」とは、「無数にある選択肢の中から、自分に合うものを自由に選べること」であり、これこそが「本当の豊かさ」だと思います。

ベンチャー企業は、世の中に新しい価値を創造していくことが使命です。常に理念を胸に抱き、「誰もが金銭の有無や住む場所など関係なく、まるで水の様に理想の医療を享受できる社会」を実現するため、さらに事業の価値を高めていきたいと考えています。

この度は、長時間にわたり貴重なお話をお聞かせいただきまして、誠にありがとうございました。御社の今後益々のご発展をご祈念いたします。



伊藤社長(中央左)、みらい平支店木下支店長(左)、筑波総研ファンド担当金子主任(右)と聞き手・藤咲耕一